

下水道長寿命化対策のパイオニアとして貢献

会長 佐藤 匡良



令和4年度末における全国の汚水処理人口普及率は92.9%に達し、下水道施設のストックマネジメントとともに、自然災害に対する下水道施設の耐震・補強対策も重要な課題として、長期的な予算確保が必要です。同時に「少子高齢化」に伴い、下水道工事も類に漏れず、建築・土木工事現場における管理者や作業員の労働人口の減少も、業界の課題となっています。当協会では、こういった課題を解決すべく、下水道処理

施設や管路・マンホールの腐食劣化抑制および補強技術面で、耐用年数50年を確保できるLCC低減の「ジックボード工法」をはじめ、現場の省人・省力化が可能な工程短縮技術のご提案と、全国200社からなる協会員組織の横連携で、現場管理者不足や作業員不足の課題を解決し、下水道長寿命化対策の専門技術者集団として、持続可能な下水道事業の実現に貢献いたします。